

• • • • •
• • • • •
• • • • •

Fukuoka Art Museum Annual Report 1999

平成11年度

福岡市美術館
活動の記録

• • • • •
• • • • •
• • • • •
• • • • •

• • • • •
• • • • •

Fukuoka Art Museum Annual Report 1999

平成11年度

福岡市美術館
活動の記録

• • • • •
• • • • •
• • • • •
• • • • •

目次

凡例	04
美術館日誌	05
展示活動	06
特別企画展等	06
常設企画展	16
常設展	20
販賣展	22
競買者数一覧	27
教育普及活動	28
アートアドベンチャー	28
夏休みこども美術館	28
講座・講演会	30
博物館美習	30
ボランティア活動	31
絵画室企画	33
施設利用状況	34
出版物	38
調査研究活動	40
収集活動	41
美術資料	41
図書・映像資料	55
美術資料の修復と蔵出	55
名簿	57
資料	59
美術館平面図	60
施設概要	62
開保法規	63
利用案内	71

凡例

- 1 本冊子は福岡市美術館の平成11年4月1日から平成12年3月31日までの活動の記録である。ただし、展覧会の会期がその前後に渡るものも含む。また、期日を記した部分では、11は平成11年の略字である。
- 2 美術館日誌は美術館主催の主要な事業を挙げた。
- 3 主催展覧会の観覧者数の明細は観覧者数一欄に別途記載している。また、展覧会の詳しい内容については印刷物として記録を行っているので、参照のこと。また、就職会開催事業は施設利用状況にも記載している。
- 4 収集活動の実行資料は平成11年度に本市が財団法人福岡市文化芸術振興財団より購入したものである。データの寸法(法華)は、平面作品では146.2×112.3は縦146.2、横112.3(画面の場合はイメージサイズ)で、立体作品では、74.3×46.0×11.0は高さ74.3、幅46.0、奥行き11.0で、単位はセンチメートルである。また、所蔵登録号の番号記号の意味は下記の通りである。併せて1-A~452は出土作家の油彩画の452点である。

1 土佐作家	A 油彩等
2 日本作家	B 日本画等
3 海外作家	C 水彩等
4 素描資料	D 素描
5 黒光院弘貴美術資料	E 絵画
6 本多コレクション	F 写真
7 太田コレクション	G 彩色等
11 西山コレクション	H-1-Hd 工芸
13 山崎新賀資料	I 芸能
14 一般古美術資料	J 文書
15 研究資料	K その他
16 西本コレクション	
17 本多コレクション	
18 エイコ・ウマコレクション	

作品番号

注

1. 九州および山口県、沖縄県の出島・在住作家。
2. A~油彩等の分類には、大きさや形から油彩画と誤認と思われる作品も含む。すなわち、アクリル板の質による結果、複数の技法の併用による作品、レリーフ、コラージュ、布・紙、金属などの特殊な素材による作品も含む。立体の付属物があっても正面から鑑賞される意図展示の作品、複数技術を用いていても1点制作である作品、素描であってもその大きさや表面が油彩画に匹敵すると思われる作品もまたAに分類した。
3. G~日本画等の分類には、伝統的な素材・技法・形態による中国や朝鮮の絵画もある。
4. C~水彩等の分類には、パステルなどの多色を複数とする作品も含む。
5. G~色彩等の分類には、オブジェ、インクスケーリングなどの立体作品も含む。
6. H-1工芸は素材別に括弧号を付した。陶磁器はHd、漆器はHb、金工はHc、染織はHtとした。

なお、西本コレクションの作品名については当館で作成した作品名を「」でくくり、区別している。

- 5 図版の *、** は撮影者の区別である。
* は藤本健介氏、** は藤本克氏撮影。

平成11年

- 4月24日(土) MOA美術館名品展「桃山の美・江戸の美」開会式
MOA美術館名品展講演会を開催
5月1日(土) MOA美術館名品展講演会を開催
5月5日(木) こどもの日につき小中生の常設展入場を無料とした
5月17日(月) 収集審査会
5月24日(月) 収集審査会
7月1日(木) 開館時間延長を開始(8月31日まで)
7月2日(金) 作品寄贈者への感謝状贈呈式
7月16日(金) 古代エジプト展開会式
7月24日(土) 寄贈みごとも美術館ギャラリートークを開催(両月31日、8月21日の計3回)
8月6日(土) 寄贈みごとも美術教室ワークショップ「布を染めよう」を開催(8日まで)
8月28日(土) ヒューストン美術館展開会式
9月12日(日) ヒューストン美術館講演会を開催
9月30日(木) ボルドー美術交流団出発。
事業管理部長藤山勝之を団長とする美術交流団をボルドー市(フランス)へ派遣(10月9日まで)
10月29日(土) ラファエル・コラン展開会式
10月30日(日) ラファエル・コラン展講演会を開催
11月3日(水) 文化的日につき常設展を入場無料とした
11月4日(木) 開館20周年記念パーティーを開催
11月6日(土) 開館20周年記念講演会を開催
11月9日(火) 美術館協議会を開催
11月12日(金) 天皇在位10年を記念して常設展を入場無料とした
11月14日(日) ラファエル・コラン展フォーラムを開催
12月28日(火) 仕事始め式

平成12年

- 1月4日(火) 仕事始め式
1月8日(土) 第1回21世紀の作家―福岡・村上藤展のアーティストトークを開催
1月31日(月) ゴッホ展開会式
2月1日(火) 珠玉の東南アジア美術展開会式
2月12日(土) 所蔵品によるアートセミナー「仏像に親しむ」を開催(両月19日、26日、3月4日、11日の計5回)
2月15日(火) 福岡市美術館の仏教美術1,500万人達成
2月19日(土) ワークショップ「ゴッホになろう?」を開催
2月20日(日) 珠玉の東南アジア美術展講演会を開催
2月27日(日) ゴッホ展講演会を開催
3月7日(火) 第34回福岡市美術展審査会を開催(3月9日まで)
3月15日(水) 第34回福岡市美術展審査会結果発表
3月22日(木) 第1回21世紀の作家―福岡・村上藤展ギャラリートーク開催



作品寄贈者への感謝状贈呈式



開館20周年記念パーティー

博多開港100周年記念協賛事業
MOA美術館名品展「桃山の美・江戸の美」

会期：平成11年4月24日(土)～5月16日(日)
会場：特別展示室 A



会場写真

内容

福岡県福岡市のMOA美術館は、日本・東洋・西洋の美術工芸の名品約3,500点を所蔵する我が国でも有数の私立美術館である。本展は博多開港百周年を記念して、MOA美術館の所蔵品のなかでも南蛮美術など海外との交流に関する作品や、九州にゆかりの深い作品、茶の湯関連の作品を中心として、桃山と江戸の美術を紹介。重要文化財「洋人奏楽図屏風」や重要文化財「色絵桃花文皿」の展示のほか、復元された豊臣秀吉の「黄金の茶室」を会場内に設置し、往時を偲ばせた。



ポスターB2

入場料	一般	1,000円(800円)	（内は前売、团体(20人以上)、シルバー千円、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害手帳所持者料金）
	高・大生	800円(600円)	
	小・中生	500円(300円)	

開催日数 20日

出品点数 78点

観覧者数 35,117人

印刷物 ポスター(B1, B2, B3)
チラシ(A4)
図録(A4変形・112頁)

関連事業 講演会
期日：平成11年4月24日(土) 会場：講堂
演題：「日本美術に見る東西交流」
講師：藤浦正行氏(MOA美術館学芸課長)

期日：平成11年5月1日(土) 会場：講堂
演題：「桃山の美と茶の湯」
講師：筒井祐一氏(茶道資料館副館長・今日庵文庫長)

関連記事

- | | |
|-----------|---|
| 西日本新聞(夕刊) | H.11.3.25 MOA美術館名品展「桃山の美・江戸の美」/秀吉の「黄金茶室」復元 |
| 西日本新聞(夕刊) | H.11.4.8 桃山・江戸の美 黄金茶室復元も |
| 西日本新聞(夕刊) | H.11.4.18 重文食む名品ぞい! MOA美術館名品展「桃山の美・江戸の美」 |
| 西日本新聞(夕刊) | H.11.4.27 よみがえる日本のルネサンス(上) まだ見ぬ西洋への憧れ |
| 西日本新聞(夕刊) | H.11.4.28 よみがえる日本のルネサンス(中) 「九州一」のお墨付き |
| 西日本新聞(夕刊) | H.11.4.30 よみがえる日本のルネサンス(下) 精巧さの中薄う雅味 |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.4 「桃山の美・江戸の美」展が一万人突破 |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.4 お茶の精製法や茶道の歴史解説/MOA美術館名品展記念講演会 |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.7 MOA美術館名品展「桃山の美・江戸の美」続編とわびさひと |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.8 「MOA美術館名品展桃山の美・江戸の美」に寄せて(筒井祐一) |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.10 「桃山の美・江戸の美」—MOA美術館名品展から/文化の高さがうかがえ(庄司・福岡県行会長 後藤昌彦) |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.11 「桃山の美・江戸の美」—MOA美術館名品展から/壮大に自然を描いた金碧画(九州産業大学芸術学部教授 松永洋子) |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.12 「桃山の美・江戸の美」—MOA美術館名品展から/想像とは違う秀吉の愛知(はせかわ社長 長谷川裕一) |
| 西日本新聞(朝刊) | H.11.5.12 MOA美術館2万人突破 |

福岡市美術館開館20周年記念
読売新聞西部発刊35周年記念

ヒューストン美術館展

ルネサンスからセザンヌ、マティスまで



会場風景

内容

アメリカ合衆国のテキサス州南東部、ヒューストン市にあるヒューストン美術館の所蔵品約4万点の中から、テンペラ・油彩72点を厳選して紹介。両美術館の作品をアメリカ国外でまとめて公開される初めての機会となった。「ゴシックからルネサンスへ」「バロック」「ロココ」「ロマン主義から20世紀へ」という4つのパートに分けて、14世紀シエナ派の聖母子像から20世紀のモンドリアンまで、西洋絵画600年の流れを伝える作品が展示された。

入場料	一般	1,000円(800円)	()内は前光、团体(20人以上) シルバー手帳、身体障害者手帳、 精神障害者保健福祉手帳、 障育手帳所持者料金。
	高・大生	800円(600円)	
	小・中生	500円(300円)	

開催日数 32日

観覧者数 27,371人

出品点数 72点

印刷物 ポスター(B2, B3)
チラシ(A4)
図録(A4変形・220頁)

関連事業 講演会

期日:平成11年9月12日(日) 会場:講堂
演題:「西洋美術への誘い—ルネサンスを中心に」
講師:岡田道司氏(京都大学総合人間学部助教授)

会期 ○ 平成11年8月28日(土)~10月3日(日)
会場 ○ 特別展示室A

主催 ○ 福岡市美術館、読売新聞西部本社、両美術館協賛会員
ヒューストン美術館、サタ・キャンベル・プラッファー財团
後援 ○ 外務省、アメリカ大使館、福岡県教育委員会
FMK福岡放送、福岡放送、長崎国際ナレーティング
熊本県民テレビ、テレビ大分、山口放送、FMUKIOKA
JR九州、西日本新報、福岡市文化芸術振興財團
特別協賛 ○ 株の明太子ふくや
協賛 ○ NTTドコモ九州、並町(株)、花王(株)、大塚建業
協力 ○ 日本航空、コンチネンタル航空、ヤマト運輸



ポスター

関連記事

- | | |
|----------|---|
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.17 ヒューストン美術館展1 金魂を遠ざける聖アントニウス(福岡市美術館学芸員 山本香穂子) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.18 ヒューストン美術館展2 聖母子(福岡市美術館学芸員 山本香穂子) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.19 ヒューストン美術館展3 女予宮に扮した若い女性の肖像(福岡市美術館学芸員 山本香穂子) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.20 ヒューストン美術館展4 ユノヒルナ(福岡市美術館学芸員 山本香穂子) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.21 ヒューストン美術館展5 花束のある静物(福岡市美術館学芸員 山本香穂子) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.27 ヒューストン美術館展あす開幕 |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.29 西洋美術の系譜一目で／入場者珠玉の美に見入る／開幕のヒューストン美術館展 |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.29 ヒューストン美術館展開幕 |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.8.31 ヒューストン美術館展会場から／色鮮やかな板絵に驚いた(三潴町一丁原 田中久美子さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.2 ヒューストン美術館展会場から／深い色のマティスが新鮮(福岡市西区生松台 横谷由美さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.3 ヒューストン美術館展会場から／圧倒されたルソーの樹の木(大阪府豊中市本町 古村武さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.3 ヒューストン美術館展会場から／保存状態の良さに驚き(福岡市南区長丘 渡口孝子さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.3 ヒューストン美術館展会場から／国際都市づくりの弾みに(福岡市東区盛原 西村宏子さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.4 紡織ファン横内外からヒューストン美術館展 |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.14 ヒューストン美術館展 京大助教授が講演 |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.15 云術の秋新たな感動／ヨーロッパ繪画600年の流れ |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.15 展覧会を見て／豪華らしいバロック期の人物画(九州造形短大教授・福岡県美術協会理事長 木戸龍一) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.17 ヒューストン美術館展会場から／絵のタッチしかに見られた(福岡市中央区平尾 松尾陽光さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.18 ヒューストン美術館展会場から／まるで写真、描写力に圧倒(那珂川町片桐 増本美津子さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.18 西洋美術600年の流れ展観／ヒューストン美術館の見どころ(福岡市美術館学芸員 山本香穂子) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.18 入場2万人を突破 |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.22 ヒューストン美術館展会場から／改修するマリアの涙に感動(福岡市東区和白 中村春代さん) |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.9.24 名画72点と…芸術の秋の一日／ヒューストン美術館愛好家らどっと |
| 読売新聞(朝刊) | H.11.10.2 ヒューストン美術館展あすまで |

福岡市美術館開館20周年記念・生誕150年
ラファエル・コラン展

会期○平成11年10月30日(土)～11月28日(日)
会場○特別展示室A



会場風景

内容

19世紀後半から20世紀初頭のフランスで活躍したアカデミズムの画家であるラファエル・コラン(1850～1916)は、黒田清輝をはじめ日本の明治の洋画家の留学中の師としてその名を知られながらも、その画業の子孫は明らかにされていなかった。画家の生誕150年、およびコランの『海辺にて』を購入作品第1号とする福岡市美術館の開館20周年を記念した本展は、世界初のコラン個展として、この画家の実像に迫ることを試みた。



ポスター

入場料	一般	1,000円(800円)	内は前売、団体(20人以上)、シルバー手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害手帳所持者料金。
	高・大生	800円(600円)	
	小・中生	500円(300円)	

開催日数 26日

観覧者数 40,584人

出品点数 205点

印刷物	ポスター(B1, B2, B3)
	チラシ(A4)
	鑑賞ガイド(B4三つ折)
	図録(A4変形・302頁)

関連事業

講演会
期日:平成11年10月30日(土) 会場:講堂
演題:「コランと19世紀フランス画壇」
講師:ブルー・フカール氏(パリ第4大学教授)

フォーラム
期日:平成11年11月14日(日) 会場:講堂
演題:「コランと日本」
講師:三浦萬氏(東京大学助教授)、三輪英夫氏(九州大学助教授)
進行:三谷理華(福岡市美術館学芸員)

主催○福岡市美術館・西日本新聞社・テレビ西日本
ラファエル・コラン研究会委員会
後援○外務省・文化庁・フランス大使館
福岡市文化芸術振興財團・西日本鉄道
西日本リング新聞社・TVG・TXN九州・CROSS FM
FM FUKUOKA・LOVE FM
協賛○富士通株式会社
協力○日本航空・九州日仏書院

関連記事

西日本新聞(朝刊) H.11.9.16 生誕150年ラファエル・コラン展 福岡市美術館開館20周年記念

西日本新聞(夕刊) H.11.10.7 ラファエル・コラン展／日本の古代洋画に再び／30日から福岡市美術館

西日本新聞(朝刊) H.11.10.7 30日に「コラン展」講演会

西日本新聞(夕刊) H.11.10.25～29 藤原への畫 ラファエル・コラン5つの世界！～5

西日本新聞(夕刊) H.11.10.28「恐れられた畫家」再び／ラファエル・コラン展

西日本新聞(朝刊) H.11.10.29 ラファエル・コラン展で絵人形祭り付け／福岡市美術館

西日本新聞(朝刊) H.11.10.30 きょうからラファエル・コラン展

西日本新聞(夕刊) H.11.10.30 奈良な画面にうっとり／コラン展開幕

西日本新聞(朝刊) H.11.10.31 コランは鉛筆性の豪傑／画家／パリ第4大学のカール教授が講演／西郷展始まる

西日本新聞(朝刊) H.11.11.3 14日にコラン銘記多フォーラム／福岡市美術館

西日本新聞(朝刊) H.11.11.5 世界で初めて全貌展示／福岡市美術館 ラファエル・コラン展／日本近代洋画に影響(福岡市博物館学芸員 中山昌一郎)

西日本新聞(朝刊) H.11.11.7 日本美術を愛した近代日本洋画の神、見どころ

西日本スポーツ H.11.11.9 宮能、気品、清純／女性美にうっとり／ラファエル・コラン展／福岡市美術館で28日まで

西日本新聞(朝刊) H.11.11.12 細緻な作品の味わい／28日まで「ラファエル・コラン展」

西日本新聞(朝刊) H.11.11.13 春春

西日本新聞(朝刊) H.11.11.13 コラン展が1万人突破

西日本新聞(朝刊) H.11.11.16 コランと日本データ記念フォーラム開く／福岡市美術館

西日本新聞(朝刊) H.11.11.16～18 師のむちかけ／ラファエル・コランと日本近代絵画(上・中・下)

西日本新聞(朝刊) H.11.11.16 鮎やかに光まと

西日本新聞(朝刊) H.11.11.16 日本近代洋画の原点／温和で抒情的な作品魅力／仏の画家R・コラン展

西日本新聞(朝刊) H.11.16 黒田清輝の師、R・コラン／福岡で世界初回顧展／28日まで 日本近代洋画の原点

西日本新聞(朝刊) H.11.11.17 「コラン展」によせて(リリーナ) 菊原民代さん

北日本新聞(夕刊) H.11.11.17 福岡市で福島ま、R・コラン展／日本の近代洋画に影響

西日本新聞(朝刊) H.11.11.18 「コラン展」によせて(ソプラノ歌手) 木村 錠代さん

西日本新聞(朝刊) H.11.11.20 コラン展2万人突破

西日本新聞(朝刊) H.11.11.20 「コラン展」によせて(ピアニスト) 関本えりさん

利田さきかげ H.11.11.20 ラファエル・コラン展／日本近代洋画の神

西日本新聞(朝刊) H.11.11.21 「コラン展」によせて(ピアニスト) 田中美江さん

西日本新聞(朝刊) H.11.11.21 「ラファエル・コラン展」～あと1週間～

長崎新聞 H.11.11.21 日本近代洋画の原点／仏の画家R・コラン展

河野利智 H.11.11.21 日本近代洋画の原点／繊細な画面人々魅了／仏の画家R・コラン展

西日本新聞(朝刊) H.11.11.22 「コラン展」によせて(オイオリニスト) 村田美英さん

西日本新聞(朝刊) H.11.11.23 「コラン展」によせて(ピオラ奏者) 平野真哉さん

西日本新聞(朝刊) H.11.11.23 ラファエル・コランの典雅な名作／世界初の回顧展にあたって／西洋の理性と日本美的の融合(東京大学助教授 三浦萬)

読売毎日新聞 H.11.11.23 日本近代洋画の原点／仏のR・コラン展

熊本日日新聞 H.11.11.23 日本近代洋画の原点／仏の画家R・コラン展

西日本新聞(夕刊) H.11.11.24 初の回顧展 実像に迫る／日本洋画の師ラファエル・コラン(小林清人)

日本経済新聞(夕刊) H.11.11.25 アプローチ九州文化・秋の特別企画展白井厚し／地域密着のテーマ充実(田鍋理恵)

西日本新聞(朝刊) H.11.11.25～26 「コラン展」鑑賞ガイド(上・中)／福岡市美術館学芸員 三谷理華

西日本新聞(朝刊) H.11.11.26 コラン展に3万人

西日本新聞(朝刊) H.11.11.27 「コラン展」鑑賞ガイド(下)／福岡市美術館学芸員 山本香穂子

読売新聞 H.11.11.27 繊細で美しい画面／コラン回顧展 日本近代洋画の原点

西日本新聞(朝刊) H.11.11.29 4万人が美を堪能／コラン展開幕

毎日新聞(夕刊) H.12.6.1 美術／ラファエル・コラン展／垂り直す歴史的様似(三田義久)

丹羽美術(平成11年9月号) 日本近代洋画推進の原動力(福岡市美術館学芸員 三谷理華)

ART GRAPH(平成11年9月号) 日本近代洋画の父Raphael Collin

福岡2001(平成11年10月号) 福岡市美術館から全国へ／世界初の回顧展、今秋開催／開館20周年記念生誕150年ラファエル・コラン展(佐藤玉希)

福岡公報(平成11年10月7日号) 主催150年／ラファエル・コラン展(土屋典子)

UP(平成11年10月7日号) 「ラファエル・コラン展」ができるまで／日仏美的の交渉(東京大学助教授 三浦萬)

アートマインド(平成11年10月号) 主催150年／10月30日(土)～11月28日(日)ラファエル・コラン展

アートマインド(平成11年10月号) 福岡市美術館が精力を挙げた大企画／コランの全貌に迫る、世界初の回顧展

MILLION(平成11年12月号) 日本洋画禁物展(師)／主催150年ラファエル・コラン展

美術フォーム(平成12年2月号) ラファエル・コラン／美意識と外光表現(大前田大学助教授 六人郎昭典)

デジタル第16号 ミュージアム・ミュージアム・ラファエル・コラン／福岡市美術館 三谷理華

デジタル第16号 ミュージアム・ミュージアム・ラファエル・コラン／寄せて(石橋美術館 植野健介)

BRIDGE(平成12年7月号) ART展覧会はおもしろい(イラストレーター 関伊序)

福岡市美術館開館20周年記念
FBS福岡放送開局30周年記念
読売新聞西部発刊35周年記念

クレラー＝ミュラー美術館所蔵 ゴッホ展



会場風景

内容

本展覧会にはオランダのクレラー＝ミュラー美術館から選りすぐったゴッホの作品74点が出品された。暗い色調で働く者を数多く描いたオランダ時代から、印象派の影響を受けたノルウジ時代、独自の画風を確立するアルル時代を経て、精神を病み、孤独の中で次々と傑作を生み出したサン＝レミ時代、終焉の地オーヴェール＝シュル＝オワーズ時代まで、ゴッホが絵を描いた10年間の軌跡をたどった。

入場料	一般	1,200円(1,000円)	(内は前売、团体(20人以上)…
	高・大生	800円(600円)	シニア・手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害手帳所持者料金)
	小・中生	500円(300円)	

開催日数 45日

観覧者数 181,331人

出品点数 74点

印刷物 ポスター(B1, B2, B3)
チラシ(A4)
鑑賞ガイド(B4三つ折)(p.29参照)
図録(A4変形・212頁)

会期：平成12年2月1日(火)～3月23日(木)
会場：特別展示室A

主催：福岡市美術館・FBG福岡鉄道・読売新聞西部本社
後援：○外務省・文化庁・オランダ大使館・福岡市文化芸術振興財團
共催：福岡市文化芸術振興財團
会員：福岡市文化芸術振興財團
協賛：福岡市文化芸術振興財團
出展：FM FUKUOKA(福岡)・西日本放送
特別協賛：ABN ANRO(銀行)・証券・投資機関
講師：原太子小くや
協賛：福岡バス・キユーサイ・鳥羽ハウシンググループ
協力：日本航空・日本通運
企画：NTVヨーロッパ・B.V.



ポスターB2

関連記事

- 読売新聞(朝刊) H.11.10.14 ゴッホ展／ついに登場 感動の傑作／来年2月1日～福岡市美術館
読売新聞(朝刊) H.11.12.3 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展／前売り券発売
読売新聞(朝刊) H.12.1.20 ゴッホの始になった！福岡で開催中の展覧会／子供たち赤ん坊と母など“熱演” 技法まね模写も
読売新聞(朝刊) H.12.1.28 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展2／自画像／思いの深さゆえ
読売新聞(朝刊) H.12.1.29 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展3／種まく人／神の言葉／主題に(福岡市美術館学芸員 畠田勝則)
読売新聞(朝刊) H.12.1.30 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展4／ルーラン夫人／搖れ動く愛と苦難(福岡市美術館学芸員 畠田勝則)
読売新聞(朝刊) H.12.1.30 「種まく人」／自画像／…絶々会場に／ゴッホ展
読売新聞(朝刊) H.12.1.31 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展5／月の昇る夕への風景／そこに信仰・希望・愛(福岡市美術館学芸員 畠田勝則)

読売新聞(朝刊) H.12.2.1 “ゴッホの魂”に見入る／開会・招待客ら「さすが」
読売新聞(朝刊) H.12.2.1 ゴッホ展の開会式
読売新聞(朝刊) H.12.2.2 本物のゴッホに驚き／初日から来場者絶えず
読売新聞(朝刊) H.12.2.3 ゴッホ展会場から／福岡で名作真實に應酬(福岡市中央区平尾 清上雅司さん)
読売新聞(朝刊) H.12.2.9 ゴッホ展会場から／「若い女」に寂しさ見た(福岡市西区生松台 岸本敬二さん)
読売新聞(朝刊) H.12.2.9 ゴッホ展に77歳詔を招得／「キューサイ」母子寮で贈呈式
読売新聞(朝刊) H.12.2.12 ゴッホ展会場から／死を遺した理由透ける(福岡市早良区紹代 清瀬由美子さん)
読売新聞(朝刊) H.12.2.16 ゴッホ展会場から／歴史10年と書いて驚き(福岡市中央区荒戸 石橋次郎さん)
読売新聞(朝刊) H.12.2.17 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展／描くことは生きること
読売新聞(朝刊) H.12.2.20 ゴッホ展5万人突破
読売新聞(朝刊) H.12.2.21 ゴッホ展会場から／画集と違う本物の感動(福岡市南区筑紫丘 田中公子さん)
読売新聞(朝刊) H.12.2.23 ゴッホ展会場から／才能開花の経過分かる(福岡市中央区梅光園町 井上和美さん)
読売新聞(夕刊) H.12.2.23 自画像(地方部 田中正城)
読売新聞(朝刊) H.12.2.28 「ゴッホと日本」／圓府寺・坂大助教授が講演
読売新聞(夕刊) H.12.3.3 クレラー夫人の遺産／ゴッホ展に寄せて(大阪大学文学研究科助教 圓府寺 同)
読売新聞(朝刊) H.12.3.9 ゴッホ展10万人
読売新聞(朝刊) H.12.3.12 ゴッホの生涯一目で／子供向けパンフレット好評
読売新聞(朝刊) H.12.3.16 ゴッホ展開催あと1週間
読売新聞(朝刊) H.12.3.17 ゴッホ展会場から／時を越えて訴える情感(北九州市八幡西区紅梅 鶴久恵子さん)
読売新聞(朝刊) H.12.3.18 ゴッホ展会場から／地味でち密斬新な発見(福岡市東区香住ヶ丘 西村潤さん)
読売新聞(朝刊) H.12.3.20 「ゴッホ展」入場15万人突破
読売新聞(朝刊) H.12.3.20 ゴッホ展会場から／住む場所で画風が変化(福岡市東区香椎浜 一丸孝恵さん)
読売新聞(朝刊) H.12.3.21 ゴッホ展会場から／自然描写に満ちる活気(福岡市西区姪浜町 横孝輔さん)
読売新聞(朝刊) H.12.3.22 ゴッホ展会場から／驚かされた画風の変化(福岡市早良区原 伊藤美代子さん)
読売新聞(朝刊) H.12.3.23 ゴッホ展会場から／激しく細緻な橋絵画面に(福岡市中央区清川 室間麻美さん)
読売新聞(朝刊) H.12.3.23 「ゴッホ展」今日まで
読売新聞(朝刊) H.12.3.24 ゴッホ展閉幕／入場者18万人超す

関連事業 講演会
期日：平成12年2月27日(日) 会場：講堂
演題：「ファン・ゴッホのユートピア」
講師：圓府寺 同氏(大阪大学助教授)

ワークショップ「ゴッホになろう！？」(p.28参照)
期日：平成12年2月19日(土)

第34回福岡市美術展

会期○平成12年3月28日(火)~4月9日(日)
 初期:日本画、書、写真、デザイン
 後期:洋画、彫刻、工芸
 会場○特別展示室A・B、
 市民ギャラリーA・B・C・D



審査風景

内容

美術の各分野における市民の創造性を促進し、その成果の発表と鑑賞の機会を提供することにより、市民の美術活動の振興を図ることを目的に、毎年開催している公募展。今回は、洋画等7部門で1,340人(1,616点)の応募があり、内854人(863点)が入選・入賞した。また、姉妹都市フランス・ボルドー市との美術交流の一環として、第33回展出賞作品50点を「アキテーナ工芸展」において展示した。なお、日仏姉妹都市賞受賞者のボルドー市からの招待に併せて、入選者を対象に募った美術交流団22名を派遣(自費参加)する等、両市の文化交流並びに友好親善に寄与している。

入場料	一般	300円
	高・大生	200円
	小・中生 無料	

開催日数 12日

観覧者数 8,057人

出品点数 897点

印刷物 ポスター(B2・2種)
 開催要項(B4二つ折)
 図録(A5変形・47頁)

関連事業 賞・入選発表
 期日:平成12年3月15日(水)

表彰式

期日:平成12年4月1日(土) 会場:講堂
 各賞:特別賞(日仏姉妹都市賞)1点、福岡市長賞7点、福岡市議会議長賞2点
 福岡市教育委員会賞、福岡県美術協会賞、福岡文化連盟賞、
 福岡市文化芸術振興財團賞各1点、西日本新聞社賞3点、奨励賞39点

ギャラリートーク

期日:前期 平成12年4月2日(日)
 後期 平成12年4月9日(日)

主催○福岡市・福岡市教育委員会・福岡市美術振興財團
 兼席○九州日仏学館・福岡県教育委員会・福岡県美術協会・
 福岡文化連盟・福岡市文化芸術振興財團
 西日本新聞社・福岡市財政都市委員会



ポスターB2

出品・入賞・入選状況

部門	出品(応募)		入賞・入選		招待(人・点)	展示点数(点)
	人員(人)	点数(点)	人員(人)	点数(点)		
日本画	52	57	33	33	5	38
洋画	337	451	246	246	4	250
彫刻	37	38	29	30	4	34
工芸	128	159	79	87	4	91
書	388	432	226	226	6	232
写真	267	323	165	165	6	171
デザイン	131	156	76	76	5	81
計	1,340	1,616	854	863	34	897
第33回	1,414	1,705	930	935	37	972

注 招待点数は審査員出品を含む。

関連記事

朝日新聞(朝刊)	H.12.3.15 福岡市美術展、最優秀賞に松本さん／28日から市美術館で展示
西日本新聞(朝刊)	H.12.3.15 最高賞に松本さん(中央区)／福岡市美術展入賞・入選863点決まる
読売新聞(朝刊)	H.12.3.21 福岡市美術展、最高賞に松本さん(日本画)／入賞・入選決まる28日から展示会
西日本新聞(朝刊)	H.12.3.29 市民の力作並ぶ／福岡市美術展始まる

日仏姉妹都市賞・福岡市長賞(日本画部門)
 松本啓子「さくら舟夜」

福岡市美術館所蔵名品展

会期 □ 平成11年10月26日(火)～11月28日(日)
会場 □ 近現代美術室、古美術企画展示室、
松永記念館室



会場風景

料金表 一般200円(150円)、高・大生150円(100円)、
小・中生100円(60円)。
ただし、福岡市発行のシルバーハーフ券、薄荷手帳、又は
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。
〔内は混体(20人以上)料金。〕

内容

開館以来20年の歳月で当館が収藏してきた作品は、古美術約2,500点、近現代美術約8,000点にのぼる。その中から開館20周年を記念して、当館の活動の独自性を示す名品100点を厳選して「福岡市美術館100選」を作成。(財)福岡市文化芸術振興財団が刊行した。その掲載作品を中心に、近現代美術・古美術の名品展を開催。当館の歴史の中でも、トップクラスの所蔵品が一堂に会するのは初めてのことであり、当館のこれまでの活動と今後の指針を示す展覧会となった。

出品点数 近現代美術50点 古美術50点(参考作品2点)

印刷物 ポスター(B2)

チラシ(A4) ポスター、チラシともに「西本コレクション展」と兼用
図録(A4変形・128頁)福岡市文化芸術振興財団発行



関連記事

西日本新聞(夕刊) H.11.10.21 仁清の茶壺やダリ、ミロの名品100点／26日から福岡市美術館
読売新聞(朝刊) H.11.11.19 尾形乾山からウォーホルまで／福岡市美術館所蔵名品展

所蔵品図録出版記念
西本コレクション展

会期 □ 平成11年10月26日(火)～11月28日(日)
会場 □ 企画展示室、日本画工芸室、小作品室



会場風景

料金表 一般200円(150円)、高・大生150円(100円)、
小・中生100円(60円)。
ただし、福岡市発行のシルバーハーフ券、薄荷手帳、又は
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。
〔内は混体(20人以上)料金。〕

内容

和歌山市在住の西本宏氏より寄贈された作品1,148点の中から63点を選び近現代美術の3室を使用した企画展である。ピエロを描いた「道化者・笑みと哀しみ」を企画展示室で、底辺に生きる人々の「弱者への愛を祈り」を小作品室で、そして、「女性の美しさとやさしさ」を日本画工芸室で行った。
なお、本展は、「西本コレクション」図録の発刊と寄贈記念展として実施されている。

出品点数 63点

印刷物 ポスター(B2)

チラシ(A4) ポスター、チラシともに「福岡市美術館所蔵名品展」と兼用
図録(A4変形・271頁)

展示活動 ●常設企画展

第1回21世紀の作家一福岡 村上勝展 輪郭をこえてゆく、かたち

会期：平成12年1月5日(水)～3月26日(日)
会場：企画展示室



会場風景

料金：一般200円(150円)、高・大生150円(100円)、
小・中生100円(60円)。
ただし、福岡市発行のシルバーハンド、障害手帳、又は
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。
()内は団体(20人以上)料金。

内容

「21世紀の作家一福岡」シリーズは、当館が平成11年度より新しく開始したシリーズ企画展である。福岡市周辺の美術状況の活性化に貢献した、あるいは今後貢献することが期待される作家を個展形式で紹介する。第1回目を飾る作家は村上勝(1947年福岡市生まれ。福岡市在住)。70年代より活動を開始し、福岡・北九州で頻繁に個展を行なう一方で、他の作家たちとも交流を進め、多くのグループ展を開催。福岡の美術状況に活力を与え続けている。本展では、過去20余年に渡る彼の軌跡を振り返りつつ、展示室外では新作インストレーションを展開。村上の作品の全貌を紹介した。

出品点数 41点

印刷物 ポスター(B2)
チラシ(A4)
図録(A4変形・40頁)

関連事業 アーティストトーク
期日：平成12年1月8日(土) 会場：教養講座室
タイトル：「自作について」
講師：村上 勝氏

ギャラリートーク(P2B参加)
期日：平成12年1月22日(水)
講師：村上 勝氏

関連記事

読売新聞(夕刊)	H.12.1.5	地元へシフトする美術館
西日本新聞(朝刊)	H.12.1.10	21世紀の作家一福岡 村上勝展
西日本新聞(朝刊)	H.12.1.12	羽根が搖く開放と凝縮／村上勝個展(塙田)
読売新聞(夕刊)	H.12.1.27	「21世紀の作家一福岡」の第1回展 村上勝展／モダニズムとの決別
西日本新聞(朝刊)	H.12.3.4	メールボックス／現代美術家村上勝さん

てんびょう 003号(Spring 2000)	絵画にこだわり、「顔え合った」勘定(吉田浩)
月刊はかた vol.134(平成12年1月1日号)	好きな人に届くたのしいART
シティ情報ふくおか No.506(平成12年2月1日号)	“やっぱり福岡はすごい！”と再確認させる企画と作品
九州ウォーカー 2000 No.7(平成12年3月28日号)	九州アーチストファイル vol.16

展示活動 ●常設企画展

珠玉の東南アジア美術展

会期：平成12年2月1日(火)～3月26日(日)
会場：古美術企画展示室、松永記念館室



会場風景

料金：一般200円(150円)、高・大生150円(100円)、
小・中生100円(60円)。
ただし、福岡市発行のシルバーハンド、障害手帳、又は
身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。
()内は団体(20人以上)料金。

内容

本展は、東南アジア美術の魅力に魅せられ、毎年にわたり幅広い分野の作品を精力的に蒐集してこられた山村道生氏の東南アジア美術のコレクション(唐珍木コレクション)を中心とし、氏と交流のある幾人かの個人収集家の所蔵品の中から、彫刻(石造・青銅造)工芸(陶磁・金工)などを中心に、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、ラオスなどの国々の美術工芸作品132件を精選し、一般に紹介した。

出品点数 132点 266点

印刷物 ポスター(B2)
チラシ(A4)
図録(A4変形・128頁)

関連事業 講演会
期日：平成12年2月20日(日) 会場：教養講座室
講題：「クメール美術とカンボジア国立博物館」
講師：ハップ・トゥーエイ氏(カンボジア国立博物館副館長)



ポスターB2

関連記事

西日本新聞(朝刊)	H.12.2.17 文化短報／「珠玉の東南アジア美術展」記念講演会
毎日新聞(朝刊)	H.12.2.17 珠玉の東南アジア美術

良水会水彩画展
1月18日～1月23日(木) 市民ギャラリーA
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝648人
水彩画約35点。

第8回重慶会書作展
1月18日～1月23日(火) 市民ギャラリーB-C
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝860人
半紙、色紙、墨絵、切等の漢字、かなの作品約160点。

近代スプレンダーハッピング金九州展
1月18日～1月23日(火) 市民ギャラリーD
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,308人
半紙50点、立体50点、写真40点。

シルクロード出会いの旅人展
1月25日(月)～1月30日(土) 市民ギャラリーA
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝555人
シルクロードにおける人々や風景の写真約50点。

第9回慈姫会展
1月25日(月)～1月30日(土) 市民ギャラリーB
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝921人
書約80点、水彩画約20点。

福岡水彩教育研究会展
1月25日(月)～1月30日(土) 市民ギャラリーC
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,179人
水彩画約30点。

福岡市中学校書作品展
1月25日(月)～1月30日(土) 市民ギャラリーD
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,145人
福岡市内の中学校、義務学校、約50校の書作品約600点。

第13回蘭亭書道展
2月1日(火)～2月6日(日) 特別展示室A
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝4,922人
俳句、短歌を招き書に記す漢字、かな、篆刻、隸和体で表現する書作品、約2,000点。

さんなん展
2月1日(火)～2月6日(日) 市民ギャラリーA
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,007人
大学院卒業制作展。

第三回修造会書展
2月1日(火)～2月6日(日) 市民ギャラリーB
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝800人
漢字、かなの題美輪を中心に約100点。

第25回かな書道「千葉会」選抜展
2月1日(火)～2月6日(日) 市民ギャラリーC
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,194人
篆刻、書道、隸和体等約100点。

ももちパレス～洋画エルサバード～
2月1日(火)～2月6日(日) 市民ギャラリーD
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,036人
油絵、水彩、アクリルを中心に約45点。

日本インテリアデザインスクール卒業生と在校生のアート展
2月8日(火)～2月13日(日) 市民ギャラリーA
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,128人
油絵、写真、模型を中心に約10点。

佐藤俊喜写真展 -Fukuoka ART-
2月8日(火)～2月13日(日) 市民ギャラリーB
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,113人
写真(B5)を中心約30点。

日本際美術協会西日本支部展
2月8日(火)～2月13日(日) 市民ギャラリーC
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,371人
油絵、干漆画、染物、漆器等を中心に約50点。

グループ「エル」展
2月8日(火)～2月13日(日) 市民ギャラリーD
観覧料：無料／日数＝6日／観覧者数＝1,678人
油絵、水彩、アクリルを中心に約25点。

特別企画展等観覧者数

展覧会名	個人	団体			合計
		一般	高・大生	小・中生	
MOA美術館名品展「熊山の美・江戸の美」	26,420	1,217	1,049	389	1 77 5,964 35,117
ヒューストン美術館展	15,733	1,281	1,080	1,296	121 124 7,736 27,371
ラファエル・コラン展	29,678	1,775	780	257	81 29 7,984 40,584
ゴジホ展	122,740	13,896	11,631	6,366	1,080 2,124 23,494 181,331
第34回福岡市美術展	4,415	158			3,484 8,057

常設展観覧者数

月	個人	団体			学校	高齢者等	合計
		一般	高・大生	小・中生			
4	1,923	157	77	2,157	131	2	5 138 0 234 2,529
5	3,696	263	115	4,074	678	1	973 1,652 184 402 6,312
6	1,840	142	77	2,059	282	0	318 600 169 196 3,024
7	2,544	196	19	2,759	113	286	0 399 897 172 4,227
8	4,319	327	28	4,674	42	3	0 45 2,984 298 8,001
9	2,049	145	95	2,289	109	4	71 184 380 257 3,110
10	2,839	111	125	3,075	300	46	182 528 138 312 4,053
11	5,079	243	177	5,499	419	99	65 583 467 901 7,450
12	827	65	35	927	1	41	0 42 104 87 1,160
1	1,472	120	62	1,654	5	0	0 5 0 157 1,816
2	6,198	292	230	6,720	14	176	161 351 651 392 8,114
3	5,951	688	335	6,974	101	150	364 615 191 454 8,234
計	38,737	2,749	1,375	42,861	2,195	808	2,139 5,142 6,165 3,862 58,030

年齢別観覧者数

年度	年間開催日数(回)	常設展	特別企画展	貸出展		総数
				開催数(回)	観覧者数(人)	
54	94	70,234	1	86,194	18	128,642 19 285,070
55	306	127,584	3	45,666	91	467,240 94 640,490
56	307	99,287	5	35,372	139	686,602 144 821,261
57	306	93,883	3	24,453	161	563,586 164 681,922
58	307	96,723	3	137,402	183	592,022 186 826,147
59	306	105,537	3	68,172	176	721,050 179 894,759
60	305	102,115	2	116,531	171	781,973 173 1,000,619
61	306	97,962	4	147,682	184	608,150 188 853,794
62	308	96,088	3	73,478	215	609,570 218 779,136
63	306	95,550	3	77,223	207	611,398 210 784,171
1	306	94,044	2	121,795	174	437,776 176 653,615
2	306	91,584	3	64,216	216	526,516 219 682,316
3	306	88,929	4	134,771	216	491,771 220 715,471
4	307	102,301	5	103,004	235	565,751 240 771,056
5	306	81,142	3	87,242	225	565,280 228 733,664
6	248	61,022	1	23,192	147	538,275 148 622,489
7	307	68,221	3	136,406	209	500,231 212 704,858
8	305	79,077	3	65,171	206	422,735 209 566,983
9	304	63,976	4	290,151	207	464,723 211 818,850
10	306	67,859	4	62,981	189	439,040 193 569,880
11	307	58,030	4	284,403	212	451,619 216 794,052
計	6,159	1,841,148	66	2,185,505	3,781	11,173,950 3,847 15,200,603

アートアドベンチャー

こどもたちと美術とのよりよい出会いの場を提供することを目的に、当館では平成9年度より「アートアドベンチャー」事業を展開している。これは、市内の小・中学校を中心とした学校と連携し、児童・生徒たちが美術館を利用できる機会を増やすとともに、こどもたちに、より深く美術を味わってもらおうというもの。現在のところ、美術館近郊の小・中学校を対象に、ワークショップやギャラリートークを行っている。

市内小・中学校を対象としたギャラリートーク

教師との事前打ち合わせに則りして、解説ボランティアによるギャラリートークを行った。平成11年度は約20校を対象に行つた。

21世紀の作家－福岡 村上勝廣ギャラリートーク

実施日時 平成12年3月22日(水)16:00過ぎ～17:30

参加者 員鶴中学校1～3年生 11名

ギャラリートーク講師 村上 勝氏

学芸課スタッフ 山口洋三、渡辺雄二、鬼本佳代子

内容：近現代美術企画として展示した村上勝氏の作品を、作家自ら中学生たちとともに語る。というものの、作家本人と語ることにより、中学生たちに作品へのより深い鑑賞を促すことができた。



村上勝氏(左)と話をする生徒たち

ワークショップ「ゴッホになろう！」

実施日時 平成12年2月19日(土)9:20～11:40

参加者 赤坂小学校4年生 56名

学芸課スタッフ 渡辺雄二、鬼本佳代子、平川フジ子、中原千代子

ボランティアスタッフ 末吉ヤツエ、青野恭子、小石原恵子、高木基子

知足久美子、甲斐美知子、仲上文子、川上千恵子

島尾麗子、池田富子、井嶋昌子、岡田辰枝

杉山あけみ、山本美智子、角 泉子

他 解説ボランティア

内容：「ゴッホになろう」と「ゴッホの絵になろう」という2つのワークショップを、赤坂小学校の協力で、特別企画展「ゴッホ展」に合わせて開催。ゴッホの作品を鑑賞し、前者では、いわゆる「ゴッホらしい」といわれるパリ時代以前の油彩画の色彩、および構法を体験的に理解してもらうため、ゴッホ作品を参考に作品を制作し、後者では、ゴッホ作品の中の人物になることによって、その人物の気持ち、ひいてはその作品に反映されるゴッホ自身の想図を、こどもたちに体験的に理解してもらうことを目的とした。

「ゴッホになろう」

対象作品 《種まく人》《白画像》《月の昇る夕への風景》

経過 上記の作品のアウトラインを描いた用紙(A1程度)を2枚ずつ用意。割り箸の先に線花をくるんだガーゼをくくりつけたスタンプを用意。こども一人につきスタンプ1枚！色を担当し、アウトラインをもとに点描で作品を作った。

「ゴッホの絵になろう」

対象作品 《石灰袋を運ぶ女たち》《ジャガイモを食べる人々》

《折る女》《靴を持つ男》《縫い物をする人》

《右腕に子どもを抱くシーン》《パイプをくわえた老漁師》

《パイプをくわえた農夫》《ズワーヴ兵ミリエ》

《郵便配達人ルーラン》《ルーラン夫人》《若い女》

経過 身近な道具を使ってゴッホの絵の中の人物になってみる。なった姿を写真に写し、その人の気持ちになって感想を書いた。



夏休みこども美術館'99「はてな？～よく見て感じよう～」
平成2年からはじまり、夏休み期間中のこどものためのシリーズ展覧会。こどもたちに鑑賞のきっかけとして、作品に対して何か疑問を持ってもらおうということテーマを「はてな？～よく見て感じよう～」とした。近現代美術作品の中から疑問を生じやすいと思われるスパークリアリズムおよび抽象作品を展示。また、こどもたちに集中して鑑賞してもらえるように、この年度は展示室を企画展示室のみに限定した。

会期 平成11年7月13日(火)～8月29日(日)

会場 企画展示室

展示作品 フランク・ステラ(バスラ門(分度器シリーズ))

ジョゼフ・アルバース(正方形に描ぐ“森の静寂”)

吉原治良(白い円)

磯本昭三(作品)

リサ・ミルロイ(靴)

上田 真(アイスクリーM)

金昌烈(水滴)

ポール・フタミリー(福岡県日本シリーズより、深紅の敷石、コンクリートのふち石、金属板、黄色い駐車違反の標識のある研究)



吉原治良

ガイドブック等

小学校低学年向けカード「はてな？」カード(A6 2種)

小学校中学年以上ガイド「はてな？」ガイド(A5・20頁)

夏休みこども美術館の作品鑑賞の補助として、小学校低学年向けに「はてな？」カードを、小学校中学年以上向けに「はてな？」ガイドを制作し、無料配布した。カード及びガイドには、こどもたちが親しみをもってもらえるように、キャラクター「美術館鑑じいさん」を登場させた。



夏休みこども美術館'99 ワークショップ「布を染めよう」

実施日時 平成11年8月6日(金)～8月8日(日)

10:00～16:00

参加者 小学校4年生～中学生 15名

ろうけつ染め講師 染織家 伊藤 優氏

バティック着付け講師 アントニウス・ウィドヤトモコ、

ハリ・スザナ夫妻

ギャラリートーク講師 福岡市美術館学芸員 郡葉悦子

学芸課スタッフ 鬼本佳代子

ボランティアスタッフ 沢合洋子、佐藤政子、内海照代、山崎伸代

内容：常設展示「インドネシアの染織—バティック」にあわせた、ろうけつ染めのワークショップ、展示された作品を鑑賞し、ろうけつ染めなどの技法を体験し、さらにバティックを実際に身につけてみることにより、バティックとそれを生み出したインドネシアの文化への理解を深めてもらうというもの。



完成作品と子供たち

ギャラリートーク

実施日時 平成11年7月24日(土)、7月31日(土)

8月21日(土)

いずれも14:00～約1時間(美術館探検30分、作品鑑賞30分)

参加者 7月24日(土) 小学校1年生～中学校1年生 13名

7月31日(土) 小学校2年生～6年生 11名

8月21日(土) 小学校1年生～6年生 13名

ギャラリートーク講師 福岡市美術館教育担当学芸員 鬼本佳代子

学芸課スタッフ 渡辺雄二、平川フジ子、中原千代子、山口洋三

実習生 渡辺 晃(7月24日、31日)、田辺 舞(7月24日、31日、8月21日)

経過 8月6日(金) ハンカチ大の布をろうけつ染めで染める。8月7日(土) ジャングルをテーマに、1×2メートル大の布を、グループに分かれて染める。

8月8日(日) 午前中に前日に染めた布を輻射乾燥。午後している間に常設展示のバティックを鑑賞。

都築学芸員が解説を行う。午後にアントニウス・ウィドヤトモコ、ハリ・スザナ夫妻によって、こどもたちに現代のバティックを着付けてもらう。

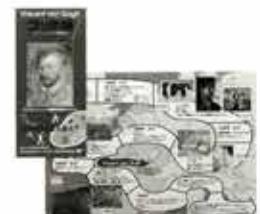
ゴッホ展ガイド

「ゴッホってどんな人？」(B4三つ折り)

ゴッホ展の鑑賞補助として、ゴッホの生涯についてわかりやすく示したワークシートを制作した。



ギャラリートーク実際



教育普及活動・講座・講演会／博物館実習

講演会

日本美術に見る東西交流(MOA美術館開館)

日時＝平成11年4月24日(土)14:00～15:30 台場＝講堂
講師＝MOA美術館学芸課長 稲浦正行氏
聴講者数＝210人。

桃山の美と茶の湯(MOA美術館開館)

日時＝平成11年5月1日(土)14:20～15:50 台場＝講堂
講師＝茶道専門講師長 今田博文氏 畠井祐一氏
聴講者数＝230人。

西洋美術への説き手～ネサンスを中心に(ヒューストン美術館開館)

日時＝平成11年5月12日(日)14:00～16:00 台場＝講堂
講師＝京都大学助教人間学部助教授 桑田嵩司氏
聴講者数＝200人。

コランと19世紀フランス画壇(ラファエル・コラン展開)

日時＝平成11年10月30日(土)14:00～15:40 台場＝講堂
講師＝パリ第4大学教授 フルーラ・カルム氏
(通訳：東京大学助教授 三浦 美比)
聴講者数＝150人。

21世紀への視点～愛と美と藝術(開館20周年記念講演会)

日時＝平成11年11月6日(土)14:00～15:30 台場＝講堂
講師＝東京大学名誉教授 今田直徳氏
聴講者数＝132人。

コランと日本(ラファエル・コラン展開)

日時＝平成11年11月14日(日)14:00～16:20 台場＝講堂
講師＝東京大学助教授 三浦 美比
九州大学助教授 三輪英夫氏
進行＝福岡市美術館学芸員 三谷理華
聴講者数＝200人。

自作について(第1回21世紀の作家—岡村上春昇展)

日時＝平成11年1月8日(土)14:00～15:30 台場＝教育講座室
講師＝村上 春昇
聴講者数＝70人。

クメール美術とカンボジア国立博物館(珠玉の東南アジア美術展開)

日時＝平成12年2月20日(日)14:00～16:00 三塚＝教育講座室
講師＝カンボジア国立博物館副館長 ハップトゥーイ氏
聴講者数＝75人。

ファン・ゴッホのユートピア(ゴッホ展開)

日時＝平成12年2月27日(日)14:00～16:00 台場＝講堂
講師＝大阪大学助教授 國野寺 邦氏
聴講者数＝220人。



ゴッホの絵を記念講演会

所蔵品によるアートセミナー 第2回 「仏像に親しむ」

講師—— 利府大学教授 八尋和泉氏
日程—— 平成12年2月12日(土)・19日(土)・26日(土)
13:00～14:30
受講生—— 50名(福岡市に在住あるいは勤務する方)

内容：福岡市美術館にて常設展示している彌生至高作「光」(西野は福岡市博多区吉原3丁目)旧式の仏像を実際に見て、仏像をさまざまな角度から鑑賞することを講義。ビデオや開拓室での解説を交え、受講生の感想や意見をとり入れながら進められた。主な内容は次の通り。

仏像の名前とその意味。
仏像の構造や材料。
制作した仏像、あるいは修理した仏像。
仏像の時代様式。
仏像の修理。



アトリエ'99 版画教室「自分の顔でアートしよう」

講師—— 美術家 片山 武氏
日程—— 平成11年12月8日(水)～12月10日(金)
13:00～16:00
受講生—— 15名



内容：地元作家である片山氏を招き、講座を行った。自分の顔写真をプリントごっこなどの製版印刷機で実際に焼き付け、シルクスクリーンの要領で版面をつくり、さらに手彩絵などをして完成するという作品を作った。また、プリントティングの技法も学んだ。

博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習について、各大学からの応募により、実習希望の学生を受け入れ。平成11年6月1日から11月30日の期間に必要な実習を行った。

実習生名

■西斎学院大学
実習日数 10日間
小島ひろみ 文学部外国語学科フランス語専攻
竹本明日香 文学部国際文化学科
永田道子 文学部国際文化学科

■福岡大学

実習日数 10日間
木下直子 人文学部文化学科
山脇清一 人文学部文化学科

■九州産業大学

実習日数 10日間
下条貴子 芸術学部芸術学科
田辺 雄 芸術学部芸術学科
中村由紀子 芸術学部芸術学科

■北九州大学

実習日数 5日間
池永憲太 文学部比較文化学科

■都知県立芸術大学

実習日数 5日間
佐松由理 美術学部・油絵科

教育普及活動・ボランティア活動

ボランティアについて

当館では、昭和51年にボランティアを募集し、昭和54年の美術館開館と同時に活動を開始した。新聞スクランブルから始まったボランティア活動は、現在では、図書、資料、解説という3つのセクションに分かれ、美術館の活動を支える重要な柱の一つとなっている。

ボランティア全体活動

6月30日(水) ボランティア総会

7月11日(月) 「みんなの福岡」ボランティア活動TV取材(7月23日(金)放送)

12月14日(火) ボランティアの研修のため、講演会を行う。

講演：障害者有する人とともに

講師：福岡市障害者関係団体協議会事務局 次長 石松 喬氏



解説ボランティア活動記録

解説ボランティア活動は、当館の常設展示を来館者の方々に解説することを目的に、昭和59年に始まった。現在は、一般的な来館者のみならず、美術の授業などで訪れた小・中学生へのギャラリートークにも力をいれている。また、学芸員が計画したワークショップの補助を行うなど活動の幅も広がってきていている。

平成11年

5月 1日(土)	福岡教育大学附属福岡小学校 6年生	83人 引率2人
19日(木)	五十市中学校	213人 引率15人
20日(金)	特別養護老人ホーム池山緑寿園デイサービスセンター	約30人
21日(土)	特別養護老人ホーム池山緑寿園デイサービスセンター	約30人
25日(水)	特別養護老人ホーム池山緑寿園デイサービスセンター	約30人
26日(木)	特別養護老人ホーム池山緑寿園デイサービスセンター 人森私立第三小学校	34人
6月 3日(木)	長崎県大村らう学校	9人 引率4人
10日(木)	解説ボランティア部会	35人 引率2人
17日(木)	福岡市立赤坂幼稚園 5歳児	79人 引率4人
18日(金)	福岡市立鶴田小学校 6年生	83人 引率3人
22日(火)	福岡雙葉小学校 6年生	83人 引率3人
7月 6日(火)	花轍ヶ丘小学校	
9月 3日(金)	福岡市立玄海中学校	50人 引率12人
7日(火)	福岡市立南川江小学校 4年生ほか	105人 引率6人
	正志ケルンビニ幼稚園	50人 引率3人
8日(水)	正志ケルンビニ幼稚園	50人 引率3人
15日(水)	下島小学校PTA会館	30人
18日(土)	福岡市立赤坂小学校 3年生	49人
19日(日)	カルチャーセンター鶴山館	40人
24日(金)	三田川長寿大学	112人
30日(木)	福岡市立野芥小学校 5年生	110人 引率4人
10月 5日(火)	舞鶴小学校 1年生	37人 引率7人
	福岡市立玄界町小学校 2年生	97人 引率4人
19日(火)	豪雪公移員共済組合会員会館	4人
20日(水)	小竹南小学校家庭教育学級	20人
26日(火)	市民対応課課員研修会	50人
27日(水)	武雄中学校PTA	35人
11月 2日(火)	福岡市立西芦崎小学校 5年生	60人 引率3人
17日(木)	舞手郡若木小学校 6年生	61人 引率4人
26日(金)	福岡雙葉小学校 5年生	119人 引率4人
12月 1日(水)	福岡市立那珂小学校障害児学級 1～6年生	111人 引率3人

平成12年	
2月 2日(水)	大和市立春園小学校6年生 武庫野市山口小学校5年生
4日(金)	58人 引率3人
9日(水)	山田小学校 59人 引率2人
16日(水)	武庫野市山家小学校5年生 30人 引率2人
19日(土)	福岡市立福岡中学校1年生 44人 引率5人
23日(水)	ワークショップ「ゴッホになるら?」練習 友和会(老明は地老人クラブ) 21人
3月 3日(金)	那珂川町南郷小学校6年生 37人 引率3人
9日(木)	南当仁小学校5年生 91人 引率3人
10日(金)	文部省学校1～3年生 44人 引率5人
14日(火)	ももち図書プラザ 23人
18日(土)	南当仁小学校5年生 94人 引率3人

新聞ボランティア活動記録

作業日…基本的に日曜日・金曜日を除く毎日、毎日毎に担当する新聞を決め、新聞切り抜き作業を行う。

月曜日:毎日新聞

火曜日:読売新聞

水曜日:西日本新聞

木曜日:朝日新聞

土曜日:日本経済新聞

月1回共同作業日を設け、各グループ間での情報交換・意志の統一を図る。
また、振替会や美術に関するビデオの鑑賞会を行う。



平成11年	
4月 6日(火)	アン・トリエンナーレ第3回福岡アジア美術館見学会および懇親会 参加20名
5月 11日(木)	共同作業 記者会見の整理ほか 参加7名
6月 1日(水)	共同作業 記事の取扱いについての勉強会 参加7名
30日(水)	ボランティア懇親会の打ち合わせがランティア分科会 20周年事業の話し合い(都築校子・吉野浩樹・シンボリウム)参加報告 参加10名
7月 6日(火)	1991年記事の整理 20周年事業について一斉記念号の読み方での開催・計画 データベース化を目指すことを決定 参加9名
8月 3日(火)	共同作業 記事の取扱いについての検討会 参加13名
9月 1日(火)～15日(木)	開拓作業(手帳欄)のコンピュータによる索引データベース作成 参加7名
7日(火)	共同作業 朝日新聞ファイル作業 参加8名
10月 5日(火)	共同作業 1～9月分大型記事の整理 参加11名
22日(金)	共同作業 11月の20周年に向けた開業用ファイルの完成 参加13名
26日(火)	開拓室にて新聞切り抜きファイル(一般美術記事)開幕開始以後、月毎に新規ファイルに入れ替える。
11月 30日(火)	共同作業 1991年記事の整理 参加7名
平成12年	
2月 7日(月)	共同作業 未整理分記事の収集調査 参加13名
3月 6日(月)	共同作業 「ボランティア通報」に6月の話し合い 我孫子立美術館学芸員の当館のボランティア活動紹介
29日(火)	

図書ボランティア活動記録

基本的に火曜日から土曜日までの各曜日午前と午後の班に分かれ、資料整理業務に関する作業を行う。

1. 当館所蔵作品及び当館施設案内記事の掲載誌整理作業
当館所蔵雑誌の一冊から、当館の所蔵作品及び施設についての記事を探し、索引作りを行う。

2. 目録カード整理作業

- ・移目記載
- ・アジア美術館に移管した資料の目録カードが不要になったため、カードケースから抜く

3. 図書部会開催

- 期日:平成11年6月30日(水)
会場:若葉講堂室
参加者数:9名
内容:当館所蔵作品及び当館施設案内記事掲載誌整理作業手順の説明
意見交換など



読書室企画

読書室の一角に当館主催の展覧会に関する資料の特集などをを行い、来館者に美術に関する知識や興味をより深めてもらえるような、資料を通しての普及啓発活動を行う。

1. 常設展関連図書特集
常設展示室での各展示関連

2. 特別展関連図書特集

- 平成11年4月20日(火)～5月16日(日) MOA美術館展関連
- 平成11年8月24日(火)～10月3日(日) ヒューストン美術館展関連
- 平成11年10月26日(火)～11月28日(日) ラフエル・コラン展関連
- 平成12年1月25日(火)～3月23日(木) ゴッホ展関連

3. 読書室企画図書特集

- 平成11年7月13日(火)～8月29日(日) 夏休みこどもとよがん
- 平成12年2月16日(水)～3月31日(金) 観覧者数ベスト20の展覧会の図録特集
(観覧者1,500万人突破記念)

講堂

主催事業

講演会名	期日	講師	聴講者数(人)
日本美術に見る東西交流 (MOA美術館開館式)	平成11年4月24日土	MOA美術館学芸課長 穂浦正行	210
桃山の美と茶の湯 (MOA美術館開館式)	平成11年5月1日土	茶道資料館副館長 今西文庫長 関井統一	230
西洋美術への誘い~ヘルスサンスを中心としたヒューストン美術館開館式	平成11年9月12日日	京都大学総合人間学部助教授 同田道尚	200
コランと19世紀フランス画壇 (ラ・フルエル・コラン開館式)	平成11年10月30日土	パリ第4大学教授 ブルーノ・フカール 通訳 東京大学助教授 三浦 哲	150
21世紀への視点~愛と美と芸術 (美術20周年記念講演会)	平成11年11月6日土	東京大学名誉教授 今道友信	132
コランと日本 (ラ・フルエル・コラン開館式)	平成11年11月14日日	東京大学助教授 三浦 哲 九州大学助教授 三輪英夫 畫行 横浜市美術館学芸員 三谷理恵	200
ファン・ゴッホのユートピア (ゴッホ展開式)	平成12年2月27日日	大阪大学助教授 國府寺 司	220

(講師敬称略)

貸館事業

講演会名	期日	講師	主催	参加者数(人)
胡蝶の美と滋潤の美 現代の絵画 (第17回上野の森美術館大賞 九州展開式)	平成11年6月1日火	九州造形短期大学学長 谷口治達 日展評議員 日野耕之祐	(財)日本美術協会 上野の森美術館	75
エジプト文化紹介 (古代エジプト展開式)	平成11年7月20日火	RKB毎日放送 エジプト人留学生	160	
JPSスライド&トークショー	平成11年9月26日日	JPS	240	
第15回城南地区市民アート展表彰式	平成11年11月7日日	ふれあい城南連合委員会 城南区役所	80	
福岡大学映画研究部第5回特別上映会	平成11年11月21日日	福岡大学学術文化部会 映画研究部	55	
福岡シネマクラブフェスティバル“FILMOVIE” (11月27日土) (11月28日日)	平成11年11月27日土 11月28日日	福岡シネマクラブ フェスティバル	86 58	
FCC公開収音会 (放送講座室も使用)	平成11年12月4日土	福岡コピーライターズクラブ	100	
第20回西日本茶道美術公募展表彰式	平成11年12月26日日	西日本新聞社 西日本美術協会 テレビ西日本	180	
福岡市美術連携講演会	平成12年1月9日日	会長 四島 司	福岡市美術連携	240
福岡市書道協会総合講演会「王獻之について」	平成12年3月5日日	白川青藤	福岡市書道協会	240
トヨタエイブルアート・フォーラム	平成12年3月12日日	トヨタ自動車 日本障害者芸術文化協会 エイブルアート・フォーラム福岡製作委員会	200	
九州産業大学自主制作上映会シネマスター	平成12年3月26日日	小池徹成	58	

その他研究会等 2件

(講師敬称略)

教養講座室

主催事業

講座・講演会名	期日	講師	聴講者数(人)
夏休みごども美術教室ワークショップ (実技講座室も使用)	平成11年8月6日金 8月7日土 8月8日日	ろうけつ染め 染織家 伊藤 透 アントニウス・ウィドヤトモコ、ハリ・スザナ夫妻 ギャラリートーク 福岡市美術館学芸員 郡賀悦子	15 15 15
アトリエ'99版画教室 (実技講座室も使用)	平成11年12月8日水 12月9日木 12月10日金	美術家 片山 武	14 14 14
自作について (第1回1次始の作家・植崎村上映画開館式)	平成11年1月8日土	村上 謙	70
所蔵品によるアートセミナー第2回 (仏像に親しむ)	平成12年2月12日土 2月19日土 2月26日土 3月4日土 3月11日土	別府大学教授 八尋和彦 八尋和彦	45 41 42 35 37
クメール美術とカンボジア国立博物館 (珠玉の東南アジア美術展開館式)	平成12年2月20日日	カンボジア国立博物館副館長 ハップトゥイ	75

(講師敬称略)

貸館事業

主催

講座・講演会名	期日	主催	聴講者数(人)
アジア映画講座	平成11年4月25日日 5月23日日	オフィス・ヌーウェルツアーグ	54 23
太平洋美術会西日本支部表彰式	平成11年6月29日火	太平洋美術会西日本支部	45
古代エジプト展覧会	平成11年7月20日火	花合歓会	12
バステル画のおもしろさ	平成11年10月29日金	森 敏志	85
野点茶会(第34回各流派興茶会)	平成11年11月3日水	福岡茶道文化連盟	900
美術部図書授業	平成11年11月5日火 11月10日水 11月11日木 11月19日火 11月24日水 11月25日木 平成12年2月22日火 2月24日木	福岡市立舞鶴中学校	30 30 28 30 28 29 34 72
第20回中央区市民文化祭「美術作品展」表彰式	平成11年11月21日日	中央区市民の祭り運営委員会	50
FMシネマテークNo.101 OPEN FILM/VIDEO BOX VOL.14 シダックスフードサービスゴッホを見る会	平成11年11月28日日	フィルム・メーカー・フィールド	41
その他研究会等 34件		中村さゆり	10

(講師敬称略)

実技講座室

主催事業

講座名	期日	参加者数(人)
アートアドベンチャー	平成12年2月19日(土)	56
ワークショップ「コッホになろう!?」		

販館事業

講座名	期日	主催	参加者数(人)
野焼き作陶会	平成11年4月10日(土)	能古美術館	20
日洋会	平成11年4月17日(土)	日洋会	14
アツサン学習会	平成11年4月18日(日) 5月23日(日) 6月27日(日) 7月11日(日) 10月17日(日) 11月21日(日) 12月5日(日)	武藏美術同学習会	10 20 15 10 15 10 10
創元会作品研究会	平成11年5月16日(日) 12月19日(日) 平成12年1月9日(日) 3月12日(日)	創元会	38 47 46 46
福岡市小学校图画工作研究会定期会	平成11年6月19日(土) 平成12年2月5日(土)	福岡市小学校图画工作研究会	35 50
福岡市中学校美術教育研究会会員研修	平成11年7月7日(水)	福岡市中学校美術教育研究会	31
JINの会野焼きのための作陶会	平成11年7月18日(日)	JINの会	70
日洋会研究会	平成11年8月29日(日)	日洋会福岡	15
形彩会研究会	平成11年12月12日(日) 平成12年1月15日(日)	形彩会	20 15
バステル相談習会	平成12年3月30日(木)	森徹志	15

版画印刷工房

販館事業

講座名	期日	参加者数(人)	期日	参加者数(人)	期日	参加者数(人)	主催
北九州版画教室	平成11年4月11日(日) 4月25日(日) 5月9日(日) 5月23日(日) 6月4日(土) 6月13日(日) 6月27日(日) 7月11日(日)	3 1 2 2 2 3 2 2	8月8日(日) 8月22日(日) 9月12日(日) 10月3日(日) 10月24日(日) 11月3日(水) 11月23日(火) 12月5日(日)	2 1 2 2 3 3 3 3	12月26日(日) 平成12年1月9日(日) 1月30日(日) 2月13日(日) 2月27日(日) 3月12日(日)	3 3 2 3 3 3	北九州版画教室
朝日カルチャー	平成11年6月8日(火) 9月21日(火)	10 10	11月30日(火) 12月1日(木)	1 2	12月2日(木) 12月3日(金)	2 2	森 優也
城南フレンドホーム夏休み創作教室	平成11年8月25日(木)	2					豊田康子
さざんかの会	平成11年12月7日(火)	2					森 小夜

読書室利用者数一覧

月	月総数(人)	一日平均(人)	開館日数(日)	年累計(人)	総累計(人)
4	842	32	26	842	298,267
5	955	36	26	1,797	299,222
6	614	23	26	2,411	299,836
7	906	33	27	3,317	300,742
8	1,420	54	26	4,737	302,162
9	820	31	26	5,557	302,982
10	623	23	27	6,180	303,605
11	752	30	25	6,932	304,357
12	321	13	23	7,253	304,678
1	420	18	23	7,673	305,098
2	1,299	51	25	8,972	306,397
3	1,207	44	27	10,179	307,604
年総計	10,179	33	307		

小数点以下切り

図録

図録名	規格	頁数	編集・発行
MOA美術館名品展「桃山の美・江戸の美」	A4変形	112	MOA美術館編集・MOA美術館名品展実行委員会発行
ヒューストン美術館展	A4変形	220	ヒューストン美術館、サラ・キャンベル・プラッファー財団 愛媛県美術館編集・愛媛県美術館、千葉県立美術館、三重県立美術館 福岡市美術館、越後新潟社・美術館連絡協議会発行
ラファエル・コラン展	A4変形	302	福岡市美術館編集・西日本新聞社発行
第34回福岡市美術展	A5変形	47	福岡市美術館運営委員会編集・発行
福岡市美術館100選	A4変形	128	福岡市美術館編集・福岡市文化芸術振興財团発行
西本コレクション	A4変形	271	福岡市美術館編集・発行
21世紀の作家―福岡・村上勝展	A4変形	40	福岡市美術館編集・発行
珠玉の東南アジア美術展	A4変形	128	福岡市美術館編集・発行

常設展リーフレット

小作品室リーフレット

No.	展覧会名	規格	頁数
197	小川幸一展	A4変形	4
198	岡田三郎助の素描	A4変形	4
199	小さきものたちー掌編絵画の展覧会	A4変形	4
200	ジル・ル・ウイット「スター・シリーズ」	A4変形	4
201	小作品リーフレット200号記念裏	A4変形	4
202	中林忠良展	A4変形	4
203	小野忠重展	A4変形	4

古美術リーフレット

No.	展覧会名	会場	規格	頁数
121	和歌と物語	古美術企画展示室	A4変形	2
122	漆の美	古美術企画展示室	A4変形	2
123	仙厓展・仙厓の画壁ニ一説国遊歴	古美術企画展示室	A4変形	2
124	インドネシアの染織ーパティック	古美術企画展示室	A4変形	2
125	スコータイとサワンカローク／インドシナ半島の陶磁	古美術企画展示室	A4変形	2
126	文芸と美術	古美術企画展示室	A4変形	2
127	黒田資料名品展	古美術企画展示室	A4変形	2



福岡市美術館100選



西本コレクション

美術館ニュース エスプラナーード

No.	発行日	内容	規格	頁数
110	H.11.5.15	開館20周年記念特集号Part-1「90年代の福岡市美術館」／報告シンポジウム「こどもたちと美術館のいま」／90年代の福岡市美術館を振りかえる／所蔵品紹介(212)室本尚郎「連鎖反応(赤、黄、青)」／所蔵品紹介(213)「色絵花鳥文瓢形瓶」／学芸員の…リアル／ライフ／展覧会案内／編集後記／インフォメーション	A4変形	8
111	H.11.7.15	特集1. 夏休みこども美術館「99[はてな？～よく見て思しよう～]」／特集2. ヒューストン美術展／所蔵品紹介(214)阿部恵也「アダムとイヴ」No.2／所蔵品紹介(215)伝・周文「山水図」／素朴なギモン／展覧会案内／編集後記／インフォメーション	A4変形	8
112	H.11.9.15	開館20周年記念特集「パート2・ラファエル・コラン展／福岡市美術館所蔵名品展」「自分さがし」の西本コレクション展／お知らせ【エスプラナーードが変わります!?】／開館記念講演会参加者募集のお知らせ／展覧会案内／編集後記／インフォメーション	A4変形	8
113	H.11.11.15	開館20周年記念特集「パート3・美術館の内外で当館の活動を見守り、支えてくださった方々の声をアンケートに答えてもらうという形式で掲載。アンケート内容 1.過去20年間で最も印象に残る・展覧会を一つ挙げて下さい。2.気になる所蔵作品を一つ挙げて下さい。3.過去と現在をくらべて福岡市美術館はどう変わりましたか？4.今後福岡市美術館に望むことはなんですか？」／アトリエ99受講者募集／編集後記／インフォメーション／他館展覧会案内	A4	8
114	H.12.1.15	特集1. 開館20周年記念特別企画展 クレラー＝ミュラー美術館所蔵ゴッホ展／特集2. 珠玉の東南アジア美術／特集3. 第1回21世紀の作家―福岡・村上勝展／特集ラファエル・コラン展／オーラム「コランと日本」／所蔵品紹介(216)村山隆多「白面像」／所蔵品紹介(217)「襷折枝文様絵巻」／編集後記／インフォメーション／他館展覧会案内	A4	8
115	H.12.3.15	特集1. 日本の美一笑い／特集2. 2000年度 福岡市美術館展覧会スケジュール／報告－21世紀の作家―福岡・村上勝展 アーティスト・トーク／所蔵品紹介(218)セルジュ・ボリアコフ「赤と黒のフォルム」／所蔵品紹介(219)辻が花染九條袈裟／エスプラナーード講語者募集／編集後記／インフォメーション／他館展覧会案内	A4	8



110号



113号



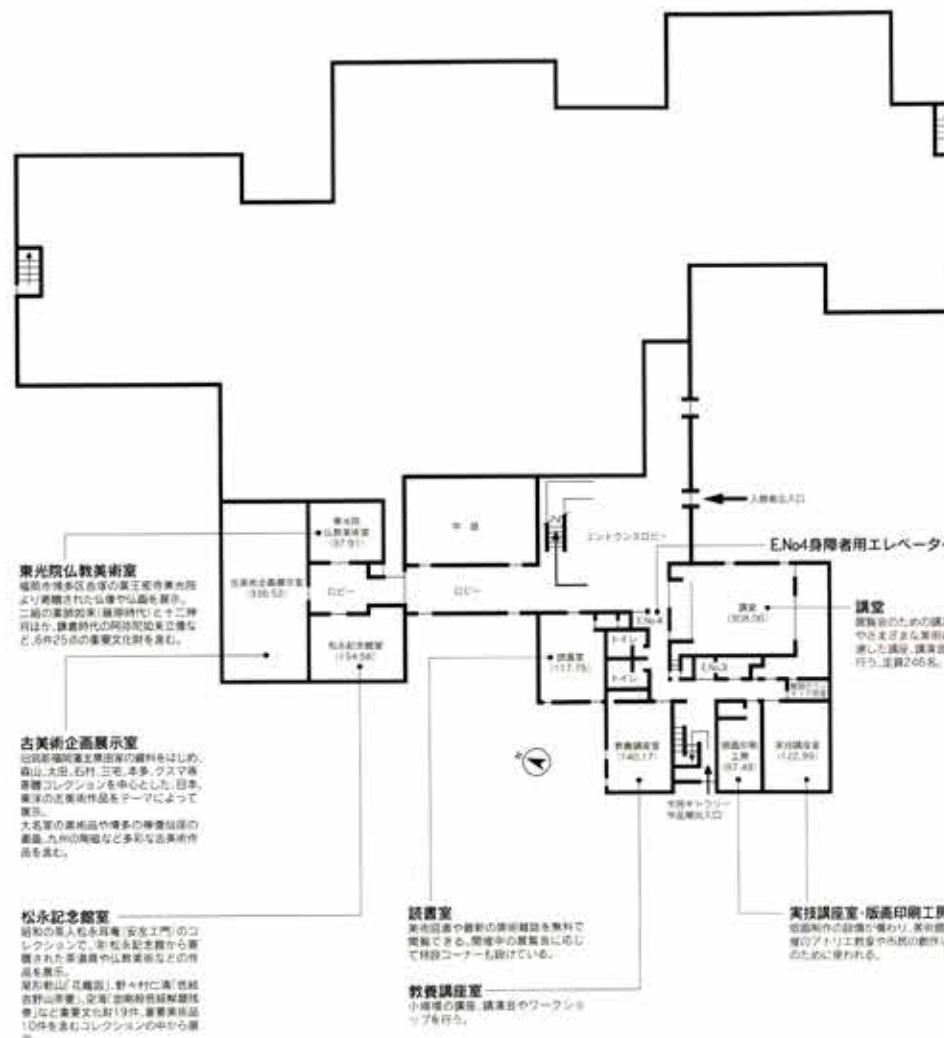
山田家
山田謙三
キク夫妻肖像(1907年)

美術資料収集件数一覧						
古美術		古美術				
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
6-E-840	吉田謙三	トムソンガゼル	1977	30.2×45.3	木版・絹	99002624
2-E-841	吉田謙三	東アフリカの夕	1977	30.1×50.3	木版・絹	99002625
2-E-844	吉田謙三	朝日の東アフリカ No.4	1981	27.0×60.0	木版・紙	99002626
2-E-867	吉田謙三	朝日の東アフリカ No.9	1982	27.0×60.0	木版・紙	99002627
2-E-884	吉田謙三	時速115キロ	1983	40.5×119.9	木版・紙	99002628
海外の作家 油彩						
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
5-A-405	サルヴァドール・ダリ	ボルトリ・カリトロ	1950	275.3×209.8	油彩・画布	99003350
ヨーロッパ						
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
1-A-452	鶴野孔夫	雲	1953	146.2×112.3	油彩・画布	99020014
1-A-454	鶴野孔夫	日	1962	145.0×111.8	油彩・画布	99020015
1-A-455	鶴野孔夫	風地(大の巣)	1986	130.6×161.9	油彩・テンペラ・画布	99020017
1-A-458	田中春勝	風景板	1985	130.5×194.0	油彩・画布	99020018
1-A-459	古澤治美	なげれ	1951	41.3×32.0	油彩・画布	99020023
九州の作家 日本画						
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
1-B-191	廣田溪仙	柳に鳩	1907	32.5×35.0	絹本着色	99020021
1-B-192	廣田溪仙	吉田謙三・キク夫妻肖像	1907	32×32(書記) 記1934(トク)	絹本着色	99020020
九州の作家 油彩						
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
1-C-205	上村次輔	墨不詳	1961	78.2×90.0	グラッセ・紙	99020013
九州の作家 美術						
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
1-D-354	吉澤吉美	墨不詳	1960	41.3×32.0	鉛筆・パステル・紙	99020022
九州の作家 彩絵						
所蔵品番号	作家名	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法	作品受入番号
1-G-41	西崎幸之助	木の様による襷袋(二)状況	1966	74.3×46.0×11.0	木・根・板	99020025
1-G-42	西崎幸之助	木の様による襷袋(二)状況	1966	24.7×29.4×11.2	木・根・板	99020027
1-G-43	西崎幸之助	襷袋不詳	1960頃	30.0×39.5×36.5	木・根・板	99020026
1-G-44	西崎幸之助	足袋の襷(一)	1972	194.8×75.0×105.5	木・根・板	99020024
1-G-46	木曾 信	トンキホー子	1959	101.5×240×14.0	テラコッタ	99020028
九州の作家 その他						
所蔵品番号	作家名	品名	寸法(cm)	素材	作品受入番号	
1-K-408	廣田溪仙	参考資料(襷の異類)	87.1×47.8×26.7	木・陶器・肥料・紙・生糞	99020019	

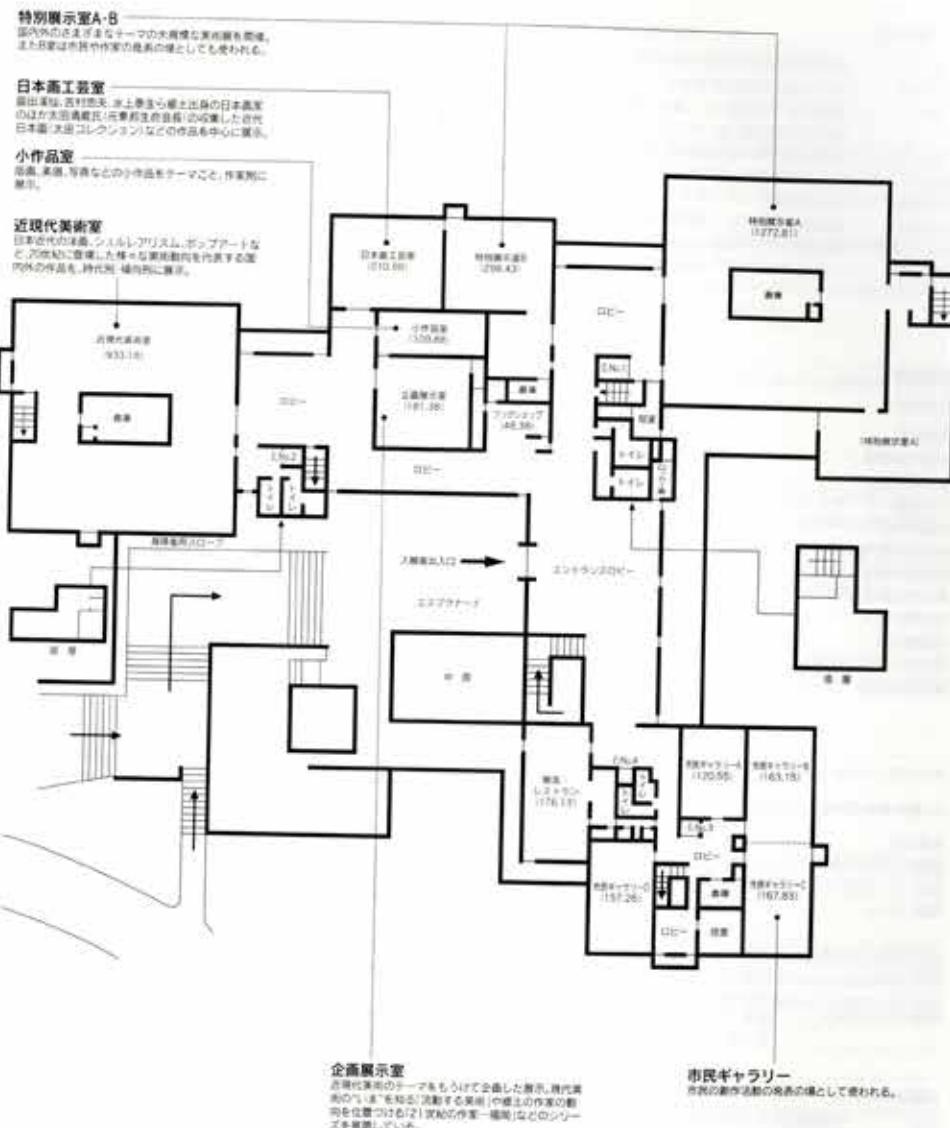
資料



美術館平面図 1階



2階・塔屋



様式第3号

福岡市美術館施設利用取止め届			
年 月 日			
(あて先) 福岡市教育委員会教育長			
申請者 市在地 団体名 代表者 (電話)	福岡市美術館条例施行規則第10条の規定によりお届けします。		
許可年月日	年 月 日	許可番号	第 号
利 用 期 間	年 月 日 時 分から 年 月 日 時 分まで		
利 用 の 取 止 め を す る施 設 又 は 用 い て お き た 施 設			
抵 抗 使 用 料	使用料 円	財 物 許 用 料 円	
取止めの理由			

様式第4号

撮影等許可申請書			
年 月 日			
(あて先) 福岡市美術館長			
申請者 住 所 氏 名 (電話)	次のとおり美術作品等の撮影等をしたいので、許可を申請します。		
なほ、撮影等に際しては、福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守ることもしくは、これらに基づく職員の指示に従います。			
撮影等の目的			
美術品等の名 作 点 数 作 者 名			
撮影等の目的			
方 法 摄影・複写・模造・複製			
撮 影			
複 写			
模 造			
複製			
方 法 摄影・複写・模造・複製			
撮影等の目的			
方 法 摄影・複写・模造・複製			
1. 福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守ることもしくは、これらに基づく職員の指示に従ってください。 2. 撮影等に当たっては、職員の指示に従ってください。			

様式第5号

撮影等許可書			
年 月 日			
福岡市美術館長			
年 月 日申請の美術作品等の撮影等を許可します。			
撮影等の目的			
美術品等の名 作 点 数 作 者 名			
撮影等の目的			
方 法 摄影・複写・模造・複製			
撮影等の目的			
方 法 摄影・複写・模造・複製			
1. 福岡市美術館条例及び同条例施行規則を守ることもしくは、これらに基づく職員の指示に従ってください。 2. 撮影等に当たっては、職員の指示に従ってください。			

福岡市美術館観覧料減免申請書			
年月日			
(あて先) 福岡市教育委員会教育長			
申請者	所在地		
姓氏名			
代表者	非		
電話	()		
福岡市美術館条例施行規則第21条第2項の規定により次のとおり福岡市美術館観覧料の減免を申請します。			
観覧料目印			
観覧日時	年月日(曜日) 時 分から		
料金者数	小学生	学年	人
	中学生	学年	人
	その他		人
	引学者		人
(注) 印の欄は、料金を負担する市の担当課において記入を受けてください。			

福岡市美術館の観覧料の減免について

1. 福岡市美術館条例施行規則第21条第1項第4号の規定により、教育長が特に必要と認めるとき教育長が必要と認める場合は、次のとおりとする。

- (1) こどもの日における観覧料の免除について
(昭和58年4月16日教育長決裁)

ア 観覧 常設展示
イ 対象日 5月5日(こどもの日)
ウ 対象者 小学校及び中学校

- (2) 文化の日における観覧料の免除について
(昭和62年10月20日教育長決裁)

ア 観覧 常設展示
イ 対象日 11月3日(文化の日)
ウ 対象者 観覧者全員
エ 観覧料 全額免除とする。

福岡市美術館使用料減免申請書	
年月日	
(あて先) 福岡市教育委員会教育長	
申請者所在地	
住所名	
代表者	
電話	()
福岡市美術館条例施行規則第22条第2項の規定により次のとおり福岡市美術館使用料の減免を申請します。	
事業者名	
主催者名	
共催者名	
利用施設	
費用期間	年月日(曜日) 時 分から 年月日(曜日) 時 分まで
本店が負担する 経費の額	円
支店等が負担する 経費の額	円
備考	

(注) 印の欄は、料金を負担する市の担当課において記入を受けてください。

利用案内



交通

地下鉄=博多駅から10分、天神から5分で大津公園下車、3番出口より徒歩10分。

バス=博多駅または天神から系統番号13で城内美術館東口下車、徒歩3分。
天神から系統番号14・60・91・93・201・203・204で赤坂3丁目下車、徒歩5分。

車=福岡空港から30分、博多駅から20分、天神から10分。

観覧料

常設展示室=一般200円(150円)、高・大生150円(100円)、小・中生100円(60円)。

ただし、福岡市発行のシルバー手帳、療育手帳、又は身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。
()内は団体(20人以上)料金。

開館時間

9:30~17:30(入館は17:00まで)

休館日

月曜日(月曜日が祝日や振替休日のときは翌火曜日が休館)
12月28日~1月4日。

夏季夜間開館

7月~8月は19:30まで開館。ただし日曜、祝日を除く。
(入館は19:00まで)



- ※ 常設展ではボランティアの解説が受けられます。
- ※ 車椅子をご利用の方は案内へお申し出ください。
- ※ 館内では飲食はご遠慮ください。自動販売機等はございません。
- ※ 駐車場は20台分です。周囲に有料駐車場もありますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。

平成11年度 福岡市美術館 活動の記録

編集 福岡市美術館
デザイン 大宝拓雄デザイン事務所
印刷 ビーアンドティービジネス株式会社
発行 2001年3月20日 福岡市美術館
〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6
電話(092)714-6051
著作権 福岡市美術館 2001年